

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 高原クリニックデイサービス

公表日 2025年2月25日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4名		限られたスペースの中で、可能な活動を考え実行している	今後、利用児数やクラス編成などの変化に応じて、その都度、検討していく
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4名		とくに何か特別な事情がある場合以外は適切であると認識している	今後も現状維持を継続していく
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2名	2名	トイレに段差があるが、注意が促せるように声かけをしたり、支えたり、見守ったりしている	トイレの段差を運動トレーニングの要素として扱ったりもしている
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4名		清掃や除菌には、常に心配りをしている	今後も現状維持を継続していく
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	2名	2名	個別のために使用する別室は設けている	玄関や廊下のスペースもクールダウンの場としても使用できる
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4名		支援計画作成時には担当者が参加して、児童発達支援管理責任者と話し合いを継続している	今後も現状維持を継続していく
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4名		年に一度、自己評価表アンケートを実施している	来年度も実施する
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4名		毎朝、出勤スタッフ全員での申し送り、支援計画作成時、カンファレンス時などに意見を出し合い話し合っている	今後も現状維持を継続していく
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4名	現在のところ、設置していない	今後の検討課題とする
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4名		法定に定められている研修は年間スケジュールを立てて計画的に実施している	今後も現状維持を継続していく
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4名		支援プログラムは、すでにホームページにアップしている	必要があれば、検討し、変更、訂正があれば再度公表する
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4名		心理士、特別支援教育士が発達検査も行い、保護者にはフェイスシートを活用したり、毎回、気になるところをその都度話し合い、ニーズや課題について分析している	今後も現状維持を継続していく
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4名		毎回、必ず担当スタッフも交えて検討しながら計画を作成している	今後も現状維持を継続していく
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4名		個別のファイルに保管し、いつでもどのスタッフも計画が共有できる状態にしている	今後も現状維持を継続していく
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4名		発達検査は主として、新版K式発達を行っているが、行動面の標準化された検査は実施していない	標準化されたツールの利用については、今後の検討課題とする
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4名		児の発達状況、保護者のニーズから検討して具体的な支援内容を設定している	新しい支援計画については、今後も児童発達支援管理責任者だけでなくスタッフ一同で理解を深め、より良い支援につなげていけるようにする
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4名		担当者全員で意見を出し合い、児や保護者の状況を鑑み、プログラムを考えている	今後も現状維持を継続していく
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4名		新しいプログラムの模索を怠ることなく、かつ季節や日本古来の行事などにまつわる活動を工夫してプログラムを立案している	外部研修などの参加も視野に入れ、新しいプログラムも取り入れることを検討する

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4名		児の発達状況、親子の健康状態を考慮に入れ、臨機応変に対応している	今後も現状維持を継続していく
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4名		毎朝、出勤スタッフ全員での朝の申し送りをやっている	可能な限り、全スタッフで情報を共有し、連携して支援に取り組んでいく
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4名		毎回、終了後は、当日の担当スタッフで振り返りを行い、個々の記録も残している	可能な限り、全スタッフで情報を共有し、連携して支援に取り組んでいく
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4名		当日、担当スタッフが必ず、個別の記録を取り保管している	日々の記録をしっかりと取ることの重要性を理解して、支援の検証、改善につなげる
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4名		定期的にモニタリングを実施し、計画の見直しを行っている	今後も現状維持を継続していく
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4名		相談支援事業所のモニタリングには担当スタッフが応じている	可能であれば、複数のスタッフで対応できるようにしていく
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4名		要請があればいつでも連携できる体制を整えている	必要がある場合には、保護者の承諾を得て連携を取っていけるよう準備をする
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3名	1名	他機関からの要請があれば連携できる体制を整えている	必要がある場合には、保護者の承諾を得て連携を取っていけるよう準備をする
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		4名	現在のところ、小学校や特別支援学校からのお問合せや連絡はない	保護者の承諾を得て、必要があればいつでも応じられる準備はできている
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4名		児童発達支援センターからのご連絡があればいつでも指導助言をいただく体制を整えている	必要であれば、こちらからも助言を受ける機会を設けていただくことを検討する
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1名	3名	現在のところ、このような機会はない	今後の検討課題とする
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4名		親子通園なので、毎回、こどもについて、また家族について情報交換ができる状態である	現状維持を継続していく
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4名		特別なプログラムは使用していないが、家族支援は行っている	研修の機会があれば出来る限り参加していきたい	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4名		ご利用開始時に、重要事項説明書に沿って、保護者に説明している	今後も現状維持を継続していく
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4名		保護者にフェイスシートの記載を依頼して、モニタリングを行い、保護者のご意見ご希望も取り入れた計画を作成している	今後も現状維持を継続していく
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4名		支援計画が完成した時点で、時間枠を設け、説明の後、ご納得いただいたうえでサインをお願いしている	今後も現状維持を継続していく
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4名		親子通園なので、毎回、こどもについて、また家族について情報交換ができる状態である	今後も現状維持を継続していく

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2名	2名	少人数であるため、父母会、保護者会などは組織化されていない	今後の検討課題とする
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4名		親子通園なので、毎回、子どもについて、また家族について情報交換ができ、その場ですぐに対応できる	現状維持を継続していく
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	1名	3名	口頭や掲示のみで情報を伝達しているのが現状である	今後の検討課題とする
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4名		スタッフ全員、十分に留意している	現状維持を継続していく
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4名		スタッフ全員、十分に配慮している	親子通園の利点を生かし、保護者としっかり寄り添っていくという理念のもと支援を続けていく
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1名	3名	地域との交流は現状では行っていない	今後の検討課題とする
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2名	2名	各マニュアルは作成済み、消防署のご指導の下、訓練も行っている	今後も年間計画のなかにも取り入れて、実施していく
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4名		BCP策定済み。定められている訓練は毎年計画的に実施している	今後も年間計画のなかにも取り入れて、実施していく
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4名		カンファレンス時に院長より個々のケースについて、説明、報告あり	今後も院長から、必要に応じしっかりと指導をしてもらう
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	1名	3名	おやつのみ提供のみ行っている、正式な指示書はないが院長からの指示を受けている。常に保護者がいるので、その場で確認もできる	必要があれば、指示書の作成も検討する
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4名		安全計画作成済み、安全管理には十分に配慮している	安心して支援が行えるよう、今後も、安全管理については、スタッフ全員で十分に配慮していく
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	1名	3名	親子通園なので、保護者の訓練の参加もあり	今後も現状維持を継続していく
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4名		現在までに大きな事故は起きていない	引き続き、事故のないように十分留意をしていく
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4名		定められている研修の機会は確保している	今後も現状維持を継続していく	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	1名	3名	全員については、支援計画に記載できていないのが現状である	次回の支援計画見直し時からは、全員に記載していく	

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 高原クリニックデイサービス

公表日 2025年2月25日

利用児童数 12名

回収数 9名

	チェック項目	回答状況				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9名 (100%)				・バタバタと走り回れるので、ちょうど良い	今後、利用児数やクラス編成などの変化に応じて、その都度、検討していきます
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	7名 (78%)	1名 (11%)	1名 (11%)		・人が多いときは、もう一人いて欲しいと思う時もある・手厚く見てもらっていて良い	グループ療育は、常時2名以上、個別は、1対1で関わっている（スタッフは全員保育士、心理士、言語聴覚士など有資格者である）
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9名 (100%)				・キッチンと整理されている・危なくない	ブレイルーム、相談室ともにほぼフラットで、水回りなども、子ども用に配慮した構造をとっている
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	9名 (100%)				・音にも配慮して、マットも敷いている・いつも清潔に保たれている。	ブレイルームは、二面採光で明るく、粗大運動も可能なスペースを確保し、個別は、個室で落ち着いて取り組める環境を備えている
適切な支援の提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9名 (100%)				・かなり寄り添って貰っていると感じる・よく声をかけてくれて助かります	小児科医師、保育士、心理士、特別支援教育士、言語聴覚士の連携の下、個々の現状に応じた支援を提供していきます
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	8名 (89%)			1名 (11%)	・小規模で寄り添ってくれ、親も相談しやすい	基本的な理念や支援方針を踏まえて、個々のニーズも取り入れプログラム立案を今後も継続していきます
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9名 (100%)				・親の話をよく聞いてくれ、子どももよく見てくれる	今後もさらに、子どもと保護者の課題やニーズの把握に努め、計画の作成を行っていく
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9名 (100%)				・見通しが立ちやすく、これからどうしたらよいか分かりやすい・かなり安心感がある	今後も現状維持を継続しつつ、支援内容の変化については、具体的かつ明確に記載していくことに努める
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	8名 (89%)			1名 (11%)	・色々と教えてくれて、子どもの出来ることが増えた	現状維持を基本としつつ、利用者の変化に迅速にかつ柔軟に対応していく
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9名 (100%)				・色々と工夫して新しいことをさせてくれる	現状維持を継続しつつ、新しい取り組みも導入していく
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	1名 (11%)	3名 (33%)	4名 (44%)	1名 (11%)		実施していないのが現状であるが、今後の検討課題とする
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9名 (100%)				・最初にキッチンとひと通り説明してくれた	今後も現状維持を継続していく
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9名 (100%)				・時間を取って説明してくれる	今後も現状維持を継続していく
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8名 (89%)	1名 (11%)			・親子で参加して、関わり方も教えてくれる	正式なプログラムに対応したペアレントトレーニングとしては、実施していないが、母子通園の利点を活かし、親子や兄弟の関わりについても指導内容に組み入れ引き続き支援を継続する
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	9名 (100%)				・話もよく聞いてくれ、相談しながら進めてくれる	今後も保護者と共通理解ができるようにしっかりと対話を重視していく
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8名 (89%)	1名 (11%)			・毎回、話をする時間をくれて、助言してくれる	保護者と毎回お話ができるし、何か問題が生じた場合もその都度、早期に対応ができる
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9名 (100%)				・悩みに寄り添って話を聞いてくれる	回答結果に騙ることなく、今後も現状維持に努める
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2名 (22%)	1名 (11%)	4名 (44%)	2名 (22%)	・ほかの親たちと話す機会があり、違う年齢の子も見れて話ができる	とくに行っていないのが現状である。今後の検討課題のひとつとする
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8名 (89%)	1名 (11%)			・対応いただいています	今後も現状維持を継続していく	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9名 (100%)					今後も現状維持を継続していく
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	3名 (33%)	1名 (11%)	3名 (33%)	2名 (22%)		親子通園なので、直接、口頭で伝えたり、掲示したりしている
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6名 (67%)	1名 (11%)		2名 (22%)		個人情報に取扱いに関しては、パソコンのウィルス対策や、紙の媒体でのデータの管理も慎重に各自が責任をもって対応している
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4名 (44%)	2名 (22%)		3名 (33%)		各マニュアルは作成済み、今後、保護者にも周知していく機会を設けます
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	9名 (100%)					消防署とご相談の上、定期的に訓練を実施している
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9名 (100%)					安全マニュアルに沿って、今後も事故の予防に努めます
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9名 (100%)					現在まで大きな事故がなく経過しています
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	9名 (100%)				・子どもは、先生たちが大好きです	今後も、子ども達や保護者の期待を裏切ることのないように気を引き締めて療育に勤しんでいきます
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	8名 (89%)	1名 (11%)				回答結果に驚ることなく、療育内容のさらなる充実にも努めます
	29	事業所の支援に満足していますか。	8名 (89%)	1名 (11%)			・この通えて幸せです・みなさん、親切です	子ども達の多様な価値観を尊重しながら個々の発達に寄り添ったきめ細かな支援を心がけます

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	高原クリニックデイサービス		
○保護者評価実施期間	2024年12月2日		～ 2024年12月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 9名
○従業者評価実施期間	2025年1月20日		～ 2025年1月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月14日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園を基本としている	親と子ども達が「共に育ち合う」という理念のもとで、保護者も療育の場に参加することにより、より良い療育環境を提供できるように取り組んでいる。親同士のひとつのピアカウンセリングの場的な存在でもある	小児科医、デイサービス、家庭と3箇所の連携をしっかりと保ち、なお、保護者との対話を重視し、不安や心配に寄り添い、療育効果をより高めるために努力している
2	多職種(小児科医師、保育士、心理士、言語聴覚士、特別支援教育士)の連携をとり支援に取り組んでいる	定期的に発達検査を実施し、結果もすぐに支援に反映することができる。また、言語聴覚士からの観点での発達状況の把握や支援についてもスタッフ間で共通理解をもっている	それぞれの職種の専門知識を活かし、勉強会や研修を行い、スタッフ全員が自己研鑽を重ねられる場の設営を計画していきます
3	少人数のスタッフなので、常に情報を共有することができる、ひとつひとつのケースを全員で考えることができる	毎朝の、スタッフ間での申し送りをしっかりと行い、個々の情報を共有することに務めている。子どもの成功体験を増やし達成感を味わい自信につなげていける療育をスタッフ全員で行えるように努力している	日々接する親子の状況をしっかりと観察して、小さな変化も見逃すことなく、問題点の早期解決をめざす

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	少人数での親子療育なので、集団のなかでの児の状況をしっかりと把握することが難しい	大きな集団のなかでの児の様子を伝聞でしか知ることができない	他の児童発達支援事業所や保育所と併用利用している児においては、他機関との情報を共有することも視野に入れていく
2	療育時間が短いので、給食指導や、トイレトレーニングを充実させるのは困難である、また活動の種類もどうしても少なくなるのが現状である(外出など)	食育においては、おやつ時間(歯磨き指導を含む)を設けていること、トイレトレーニング(手洗い指導を含む)は1回のみしかできていないのが現状である	日々の設定保育も含め、限られた時間の中で、いかに効率的に時間を有効利用していかをさらに検討していきたい
3	グループの療育室であるプレイルームが二階にある	ビルの階段の高さが子ども仕様ではなく、通常サイズなので、子ども達の自力での階段昇降やベビーカーを二階にあげることは難しい	入室時や退出時などの必要な場合には、事故予防の観点からもスタッフが見守りや援助をするように留意しておく